

## 新入園児を迎へる

東京本郷第一幼稚園 檜 山 京 子

五〇

送り出した子供達にさうぞ幸多き將來を祈つて、さて今更の様に俄に膝のまわりの淋しい三月の末、新しい入園願書を手にし、新しい幼児名に接し先づ何よりも先に爲なければならぬのは私共迎へる者の心の準備と身體の準備です。某は誰の弟だから、又妹だから、斯うであらふ、あゝであらふといふ推測や獨斷を避けるのは勿論のこと、受け寫す鏡は透明で無色で、いがんたり曲たりしない正しいものでなければならぬと同時に、正確で精密な觀察眼、初旅に出た子への同情を豊にしつかりに用意しなければなりません。そして驚きの瞳を見張つて、又はオゾ／＼不安げに、或はしぶ／＼手をひかれて、或は意氣揚々を得意で、小踊りして來る子達の、その足ざりをも感じ分け得る敏感さ、其れに應じ得るまめやかな心と身體を準備致しませう。三月學年末の過勞を充分癒す間もない四月の

始氣候も一轉化する時、教職にある者の身體は安心と疲勞がこもすれば押しよせ勝ちなものです。しかも全身を觀察眼にして緊張しなければならぬ四月新學期、充分な睡眠休養と適度な榮養は缺くべからざるもの、毎朝清々しい明朗な心と顔で幼兒を迎へる爲に私達は文字通り自愛、自重しなければなりません。もし保母の方が都會生活ばかり爲ていらつしやる方でしたら四月の新學期を迎へる前には是非一日を靜かな、しかも無言の中にまめやかに動いて冬から春へ、春から初夏へ絶えず準備をいそしんでゐる自然に接し、しつかりした土、にほやかな木の芽、果てしない大空や浪の音から充分の憩ひをお得になる事を切にお勧め致します。心と身體を準備するに同時に環境設備の準備、椅子、机、戸棚、靴箱、等の修繕、樂器の調律、砂場の遊具、炊事道具其他の補充、人形の着物新調又は洗濯、

靴箱、各々ひき出しの名札つけ、在籍簿又は幼児カードの記入、幼児と共にする春蒔きの前の花壇の手入れ、新學期に要る印刷物や保育材料の註文、砂場の砂補充、運動具箱本の修理と補充、遠足用の救急箱整理、藥品衛生材料の補充、等設備が整つたら、或は前後して新入園児又は入園希望者の身體検査又は保護者會をして豫め園の意圖する所を説明し、保護者の希望を聞くのも新入児を迎へるに就ての仕事の一到に數へられまじやう。今一つ設備に後戻りします、他家の玄關へ立たし時、嚴めしい感じ、清々しい感じが、明るい、暗い、あはたどしい、伸びやかな感じ又傍の枝折戸ごしに小鳥の囀なき聞いた時の和やかさ、花のつぼみのふくらみそめたのや色つきかけた錦木の枝なきを入口ま近に眺めてゐるこ、やがて現れて來られる家主の趣味人格の床しさがしのばれるものです、同意味でお母様に伴れられて幼児がまづ第一歩を踏み入れる幼稚園の玄關をさうして置ませう、にぎ／＼しく華麗に飾り立てる必要はなくとも、幼い心がスツミ閉ぢずに、ぼつ／＼ほ／＼ける様な雰圍氣を作り度いものです。

扱かくして入園式にいよ／＼新幼児を迎へたら第一に覚えてしまはなければならぬのは幼児の家庭での呼び名です、知らない顔や見た事のない室、何もなく落ち付かぬ様な、怖い様な、心細い感じ易い幼児の耳もこに、日頃お母様から呼ばれ慣れた言葉で「ヤッチャん」「こいはれたら」「む」こ思はず氣軽く受答をする實況は讀者のよく御承知の事と思ひます、幼児の名と顔とを結びつけて早く覺える爲に、新入の日に記念撮影をするのも一つの方法でせう、幼児名は一日で覺えられ、ば最もよく、ぎん／＼に遅くとも、組の人数にもよりますが四十人前後なら、三、四日のうちには記憶してしまはなければなりません、そして何かと勝手なれないで不安である新入當時の幼児の心持を落ちつける爲に、組の子供の靴箱の位置、各々抽出の位置は呼び名と同時に出来る丈早く覺えなければなりません。混雜してゐる玄關で靴箱がわからないで困つてゐる幼児に「ここと」すぐ指示出来るの「ここかしら」大人もろ共ウロ／＼するのこでは言葉の違ひはいさ／＼かでも子供心に及す影響の違ひは隔段となりませう。見知らぬ所へ來た幼な心の

## 新刊寄贈書紹介

母性讀本

下田次郎博士著

東西の賢母に就て實話的に分り易く書かれた本。書中には、母子を描いた名畫も挿入されてゐる。

博士は人も知る女子教育の大家で、四十年もの長い年月を只管に吾が國女性の覺醒に専念せられ、又母性の力の偉大なる事を力説せられた方。それだけに、書中至る所に、博士のこの熱情の迷りを感じないでは居られない。大方の女性にも、又男性にも切に御一讀をお奨めする。(發行所 實業之日本社、東京市京橋區銀座西一丁目三、定價 三圓五十錢)

小學實話讀本

全四冊 上澤謙二氏著

「一つは往時の偉人傑士の高邁卓拔な事蹟を示すこと、もう一つは現在の普通人の日常平凡な事件の中にこれを求めること……」  
 「後者は我が今、企て得る目標と、爲し得る範圍とを教へて、強い精神的自己發見と、實行的欲求とを誘發するのであります。……」  
 「品性教育道德教育に於ては、特に「實行」と云ふことが重んぜられる點から觀て、後者の模範的提示は大きな意味と使命とを有するものと思はれます……」

不安さを一日も早く取りのけて、明るく、アットホームな心持にする爲には保母の方々一人々々に又園全體として全力をあげねばなりません。入園後一週間や十日ですぐ室が變つたり、折角慣れた先生が變つたりする様な事が萬一あるとしたら子供達は折角ほびけた心がまた閉ぢ又おぢるのではないでせうか、閉ぢた心には教育も訓練も出来ないでせう。こゝさららしく幼児の機嫌を取つたり物を與へたりする事は不必要ですが、幼児が明日も又つゞきを爲度いご願ひ、明日もこゝで遊び度いご欲し得る程まづほびけた心持にする爲、出来る丈の努力を盡さなければなりません。同時に、昭和十三年度の、一學期の、四月の、時代の歩みから取り残されない保育案の準備も出来て居なければなりません。更に私共の研究は歴史を逆登り將來を慮て一日も足踏みせずに進めなければなりません。大切な使命を持つてゐる日本國民の基礎教育たる、幼児保育、その學年の始を迎へる私達、心身共に新に、行進の第一歩を勇敢に踏み出し度いと思ひます。

以上の著者の言葉によつてこの書の意のある所が諒解出来ると思ふ。子供自身が讀むやうに出来てゐる事、尋常一二年から高等一二年まで學年別にしてその年齢の子供に適當な實話を集録してあること。敘述に當つては創作と同様な熱と想像とを驅使したこと、等々が特色であらう。大方の御購讀をおすゝめする。(發行所 厚生閣、東京市麴町區下六番町四八、定價 一圓二十錢)